

一枚田遺跡

(第3次発掘調査)

平成14年度宅地造成事業に
先立つ緊急発掘調査報告書

2003.3

長野県原村教育委員会



二枚田遺跡

(第3次発掘調査)

平成14年度宅地造成事業に
先立つ緊急発掘調査報告書

2003. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が二枚田遺跡

序

このたび平成14年度に実施した二枚田遺跡第3次発掘調査報告書を刊行することになりました。

発掘調査は、宅地造成に先立って丸茂正さんから委託をうけて実施したものでありますが、昨年実施した調査地に隣接していたこともあり、少なからず期待もありました。環境の好いところは縄文時代も今も同じで、住居址と小竪穴を発見し縄文時代中期の集落跡の一環を明らかにすることができました。

遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいことであります。村内には100を越える遺跡が知られていましたが、諸開発により年々遺跡は少なくなっております。その流れの中で、いかなる形で保護していくのが妥当な方法か検討しております。しかし、開発の波は早く発掘調査に携わるたびに、失われる貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えて行く責任を強く感じるものであります。

発掘調査にあたり県教育委員会のご指導、多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

また、発掘調査報告書刊行に至る過程において、お世話いただいた皆様にたいして厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

原村教育委員会
教育長 津金喜勝

例 言

- 1 本報告は、平成14年度宅地造成事業に先立って実施した長野県諏訪郡原村中新田に所在する二枚田遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、丸茂正氏の委託をうけた原村教育委員会が、平成14年8月1日から9月13日にかけて実施し、整理作業は平成14年10月25日から15年3月31日まで行った。
- 3 現場における実測は小林りえ、記録および写真撮影は平出一治が行い、測量の一部は株式会社写真測図研究所に委託した。
- 4 遺物・図面等の整理は小林、石器の実測は株式会社写真測図研究所に委託し、執筆は平出が行った。
- 5 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係資料に、原村遺跡番号67を表記した。
発掘調査から報告書作成にわたって、平林彰・武藤雄六の両氏をはじめ多くの方々から御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目 次

序 例 言 目 次	
I	発掘調査の経過..... 1
1	発掘調査に至る経過
2	調査組織
3	発掘調査の経過
II	調査方法..... 2
1	位置と環境
2	調査方法と層序
III	遺構と遺物..... 6
1	住居址
2	小竪穴
3	遺構外出土の遺物
IV	ま と め.....10
	報告書抄録

I 発掘調査の経過

1 発掘調査に至る経過

遺跡内の伐採に手が付けられたことにより宅地造成計画を知るが、たまたま予定地に二枚田遺跡（原村遺跡番号67）が存在していたため、その保護については数回にわたり協議を行ってきた。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが最も望ましいことであるが、前記したようにすでに伐採は終わっており開発の要望が強かったうえに、平成10年度に県営担い手育成基盤整備事業深山地区、平成13年度に個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査を相次いで実施し、記録保存を行った経過があり「記録保存やむなき」との結論に至り、平成14年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。

原村教育委員会は、その後も協議と調査日程等の打ち合わせを行い、丸茂正氏から委託をうけ8月1日から9月13日にわたって緊急発掘調査を実施した。

2 調査組織

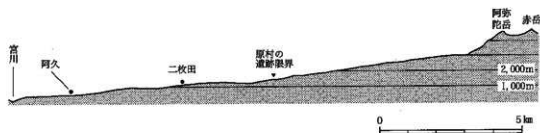
事務局 原村教育委員会

教育長 津金 喜勝

学校教育課長 小林 銜晃

文化財係長 平出 一治

文化財係 平林とし美



第1図 原村城の地形断面模式図（宮川－二枚田遺跡－赤岳ライン）

調査団 団 長	津金 喜勝 (原村教育委員会教育長)			
調査担当者	平出 一治 (文化財係長)			
調査員	田中正治郎 (長野県埋蔵文化財センター調査研究員)			
調査参加者	発掘作業	小島久美子	小林 明美	小林 智子
		小林 りえ	小松 弘	五味計佐雄
		坂本ちづる	田中 耕平	田中 初一
		津金たか子	藤原 正春	
	整理作業	小林 りえ	坂本ちづる	

3 発掘調査の経過

- 平成14年8月1日 発掘準備をはじめめる。
- 25日 上物の片付けを行い、重機でトレンチ掘りをはじめめる。
- 26日 引き続き重機でトレンチ掘りを行い、トレンチ内の精査をはじめめる。
- 27日 トレンチ内の精査を行い住居址と思われる落ち込みを確認し、重機で表土剥ぎを行い、人力で遺構の検出作業をはじめめる。
- 28日 遺構の検出作業と、グリッド掘りを行う。
- 29日 第3号住居址を検出し精査をはじめめる。
- 9月2日 小竪穴11を検出し精査をはじめめる。
- 4日 引き続き第3号住居址と小竪穴11の精査を行う。
- 5日 第3号住居址の遺物を取上げ、柱穴などの精査、土層の実測を行う。
- 11日 第3号住居址と小竪穴11の精査が終わり、遺構の実測をはじめめる。
- 13日 片付けを行い調査は終了する。

II 調査方法

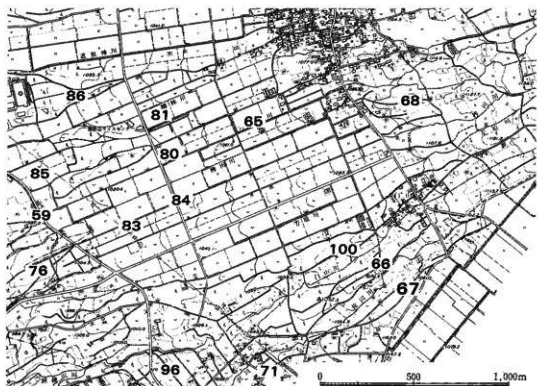
1 位置と環境

二枚田遺跡(原村遺跡番号67)は、長野県諏訪郡原村中新田区の南方1kmほどの八ヶ岳西麓に位置する。この辺りには当地方特有の東西に細長く伸びる大小様々の尾根がみられ、尾根上から南斜面には、表1と第2図に示したように縄文時代を中心とする数多い遺跡が埋蔵されている。

表1 二枚田遺跡と付近の遺跡

○は遺物発見 ○は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文				弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中後							
59	御射山北				○								
65	梨の木沢		○	○	○	○			○		○		平成元年度発掘調査 消滅
66	辺分沢				○				○				平成10年度発掘調査
67	二枚田				●								一部破壊 平成10・13・14年度発掘調査
68	芝原尾根	○	○		○				○	○			昭和57年一部破壊 平成7・8年度発掘調査
71	由原東				○				○				平成4年度立ち会い調査
76	御射山	○	○		○				○	○	○		昭和59・60・平成4年度発掘調査
80	御射山沢				○					○			昭和59年度発掘調査 消滅
81	堤之尾根		○	○	●				●				平成2年度発掘調査 消滅
83	花表原				○								昭和59年度発掘調査 消滅
84	中御射山西				○				○				昭和59年度発掘調査 消滅
85	箕平久保				○					○			昭和61年度発掘調査 消滅
86	判の木尾根				○				○				昭和62年度発掘調査
96	南原		○	○	○								平成9・11年度発掘調査
100	南長尾				○				○				平成10年度発掘調査



第2図 二枚田遺跡の位置と付近の遺跡 (1:20,000)

その一つである本遺跡は、八ヶ岳から流下する二枚田川左岸の尾根上から斜面に立地するが、すでに南斜面の多くは県道中新田・富士見線によって削平されている。調査地点は遺跡の南端付近に位置し、尾根の南斜面は急激に抉られたいわゆる日だまり地形となっている。標高は1040m前後を測り、縄文時代中期の遺跡としては高所に位置している。地目は山林と普通畑で一部水田がみられ、調査地点は山林であったがすでに伐採は終了していた。

本遺跡は2次にわたる発掘調査を実施している。第1次発掘調査は、平成10年度に県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立ち実施し、遺跡の3分の1ほどがその対象となったが、中心と思われる尾根上が外れていたこともあり、東端付近で時代不詳の小堅穴2基を検出しただけであり、遺構の密度はかなり低かった。しかし、当地方としては非常に稀な弥生時代後期の土器破片を発見したことは注目できる。第2次発掘調査は、平成13年度に個人住宅建設に先立ち実施したが、そこは本調査地点の東に隣接し、縄文時代中期初頭の住居址2軒と小堅穴8基を発見している。中期初頭期の住居址発見例は未だ少なく、集落跡が容易に想定できる本遺跡は極めて貴重である。

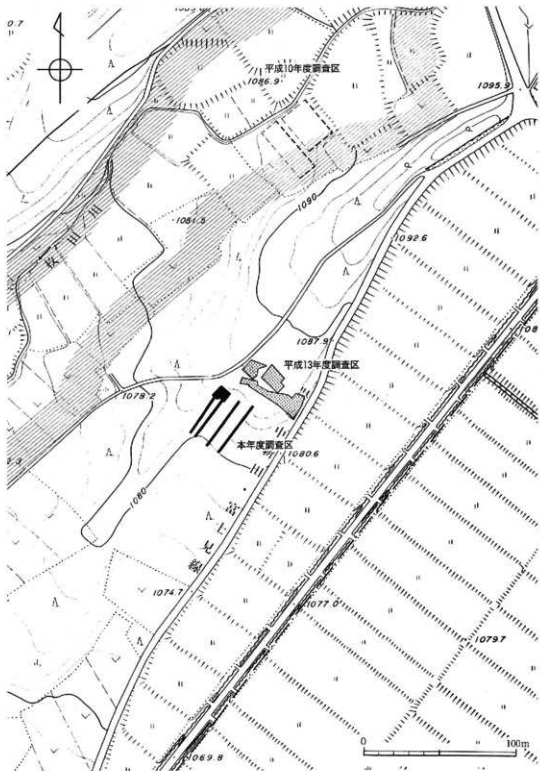
2 調査方法と層序

発掘調査の対象は、第3図に示した宅地造成予定地の全域にわたり、尾根方向に合わせたトレンチを設定し、重機で巾1.2m（バケット巾）の掘削、引き続き人力でトレンチ内の精査を行い、遺物の有無と遺構の埋没状況を確認する中で面的調査範囲を決定した。

対象地の多くは日だまり地形であったが、ロームの地山は現状とは大きく異なり、極めて深い沢状となり、深い所では240cmを計った。したがって真黒色土の堆積は厚かったが、黄褐色土の流れ込みが数回にわたり認められ、居住域としては適さなかったようで、土器や石器を発見するまでに至らなかった。

対象地北東隅の尾根の肩部にあたる狭い範囲から、縄文時代中期初頭の土器破片と石器が出土し、住居址の埋没が確認できた。その範囲の表土剥ぎは重機で行い、引き続き人力で遺構の検出に努め、発見した住居址と小堅穴の精査を層位別に行い、遺構の実測は株式会社写真測図研究所に委託して行った。ちなみに調査面積は233㎡である。

土層は住居址を検出した尾根肩部と低地では大きく異なっていた。住居址検出地点については「第3号住居址」で触れるが、基本的には腐植の混じる表土から黒褐色土、ローム漸移層と一般的な在り方を示していたが、流出が著しかったようで全体に堆積は薄く安定していない。日だまりとなる窪地は真黒色土の堆積は厚いが、前記したように流れ込みと思われる黄褐色土（ローム細粒泥）の間層が数回にわたって認められる。



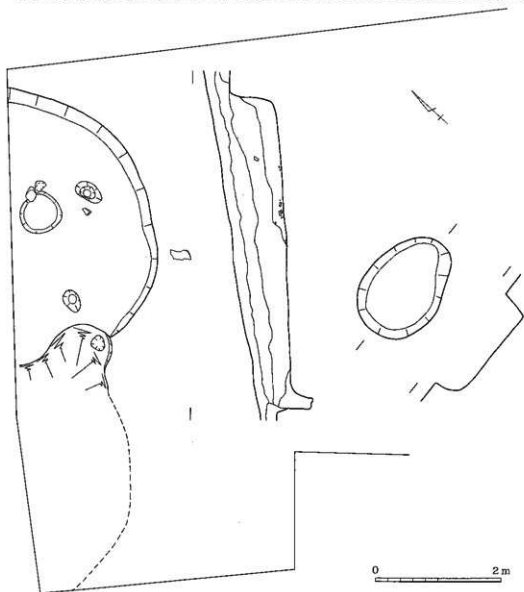
第3図 二枚田遺跡発掘調査区域図・地形図 (1 : 2,500)

Ⅲ 遺構と遺物

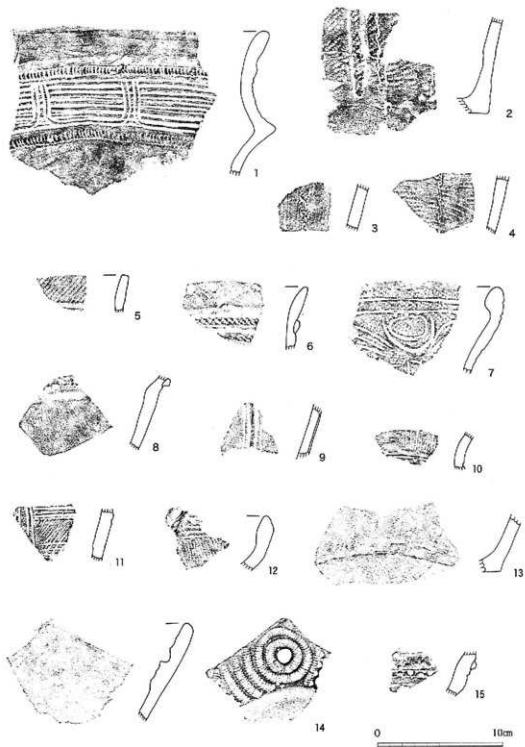
1 住居址

第3号住居址（第4～6図、写真1）

調査地の東北角で検出したが、用地の関係で住居址の約半分位を調査しただけである。



第4図 第3号住居址・小壑穴11実測図



第5图 第3号住居址·小塚穴11·遺構外出土土器拓影(1:3)

そこは尾根の肩部分にあたり、すでに南西壁は流失していたうえに、西壁から床面はロームマウンドで破壊されていた。検出した壁から推測すると、径4.5m程の円形を呈する竪穴住居址である。

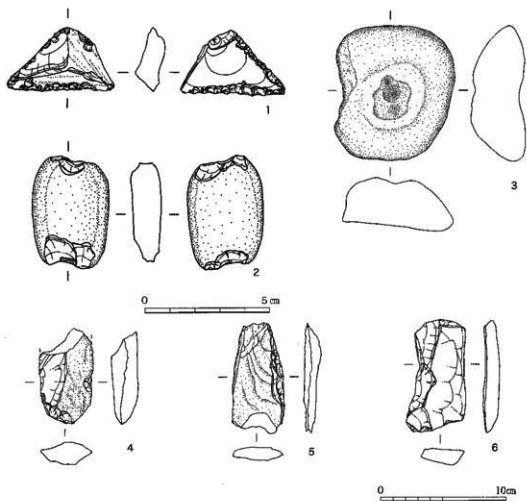
覆土は、たまたま調査地の境に位置していたこともあり、表土から観察することができた。住居址の埋土は便宜的に2層に分けたが、随時流入したためか際立った変化を認めることができない状態であり、比較的短い期間に自然埋没したものと思われる。大まかな観察結果は次のとおりである。

第I層 黒色土 上面には腐植がうすくのっている。

第II層 黒褐～褐色土 ロームの粒がわずかに混じる。

第III層 褐色～黄褐色土 ロームブロックが混じる。

第IV層 黄褐色土 炭化物と多量のロームブロックが混じる。



第6図 第3号住居址・遺構外出土石器実測図 (1・2=1:1.5 3~6=1:3)

第V層 ローム

東壁は良好で、ほぼ垂直に立ち上がり高い箇所は70cmを計るが、第IV層中に壁が剥落したと思われるロームブロックが混じる。床面は硬いタタキ床で、壁際がやや高くなる傾向がみられ、総体に自然傾斜の西方向にやや傾くが良好である。柱穴は楕円形で、P 2とP 3の2本を検出した。P 2は長径46cm、短径26cm、深さ70cm、P 3は長径38cm、短径25cm、深さ58cmと似通ったものである。P 1は径65cm、深さ13cmと浅く、底は平坦で硬いタライ状の穴で第5図5の土器小破片1点が出土した。縁部には自然石2個が据え置かれ、一見炉址のように見えるが、焼けた痕跡および焼土は一切認められなかったため性格を明らかにすることはできない。なお、炉址は未調査部分にあるものと思われ確認できなかった。

土器は破片ばかり72点で、第5図1～12の12点を図示したが、縄文時代中期初頭の九兵衛尾根式である。

石器は第6図1の黒曜石製のスクレイパー、2の硬砂岩製の石錘、3の安山岩製の凹石。図示できなかった黒曜石の原石と剥片46点がある。石錘は小石の両端を打欠いたもので、当地方においては非常に稀な資料である。凹石は片面に凹みが穿たれたもので、素材のあり方から持つというよりは置いて使われたものと思われる。

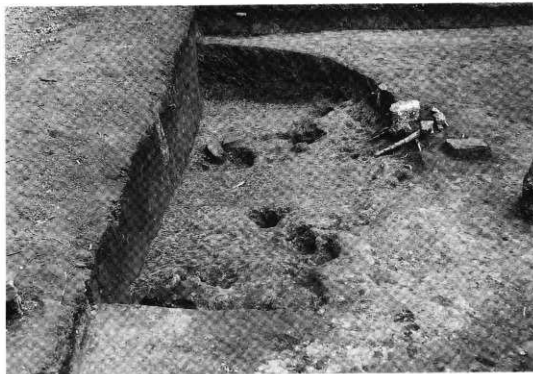


写真1 第3号住居址

2 小 豎 穴

小豎穴11 (第4・5図)

第3号住居址南の斜面でロームに黒褐色土の落ち込みを確認した。埋土は色調の変化に乏しく黒褐色土の単層としたが自然埋没と思われる状態であった。

平面形は177×128cmの不整楕円形を呈し、底面はやや南に傾くが、それは傾斜方向と同じである。壁はなだらかに立ち上がり壁高は高い所は46cm、低い所で23cmを計る。

遺物は同一個体と思われる14点の土器破片が出土し、第5図13の無文底部破片を図示したが、胎土および焼成からみて縄文時代中期初頭九兵衛尾根式である。

3 遺構外出土の遺物

遺構外からは、僅かな土器破片と石器が出土しただけである。

土器は、破片ばかり30点出土したが全て縄文時代中期初頭に帰属する。第5図14の浅鉢口縁部破片、15の深鉢頸部破片2点を図示した

石器は、第6図4～6の打製石斧3点と図示しなかった黒曜石の剥片がある。4と6は硬砂岩製、5は緑色岩製である。4は基部を5と6は刃部を欠損し完形品はない。調査地が遺跡の外縁部に位置していることから廃棄されたものであろうか。

IV ま と め

対象地の多くは日だまり地形であったが、現状とは大きく異なりロームの地山は深い沢状となり、居住域には適さなかったようで、土器破片が数点出土しただけであり、それも流れ込みないしは廃棄されたと思われるものであった。尾根の肩部にあたる斜面で住居址1軒と小豎穴1基を発見したが、住居址の半分位は村道の下になり、遺跡は北に広がっていることはたしかで、該期における遺跡外縁部のありかたの一端を明らかにできた調査といえよう。発見した住居址は縄文時代中期初頭の九兵衛尾根期に帰属し、平成13年度に実施した第2次調査で発見した住居址と同時期である。したがって、発見例が少ない中期初頭の集落跡の埋没は容易に考えられることで、これからも大事にしていきたい遺跡である。

報告書抄録

ふりがな	にまいだいせき							
書名	二枚田遺跡（第3次発掘調査）							
副書名	平成14年度宅地造成事業に先立つ緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	64							
編著者名	平出 一治							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549番地1 TEL. 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2003年03月							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
二枚田	長野県諏訪郡 原村中新田	3637	67	35度 56分 24秒	138度 14分 50秒	20020801 ～ 20020913	233	平成14年度 宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
二枚田	集落跡	縄文時代	中期 堅穴住居址 1軒 小堅穴 1基		縄文時代 中期土器破片、 石器	平成13年度に縄文時代中期初頭の住居址を発し、本調査でも発見したことで該期の集落跡埋没が容易に考えられるようになってきた。		

原村の埋蔵文化財64

二枚田遺跡（第3次発掘調査）

平成14年度宅地造成事業に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成15年3月

発行 原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印刷 もえぎ企画書籍
岡谷市御倉町2-21

